

大阪・中之島六丁目所在遺跡

なかのしま

1 所在地 大阪市北区中之島六丁目

2 調査期間 二〇〇二年（平14）八月～一〇月

3 発掘機関 (財)大阪市文化財協会

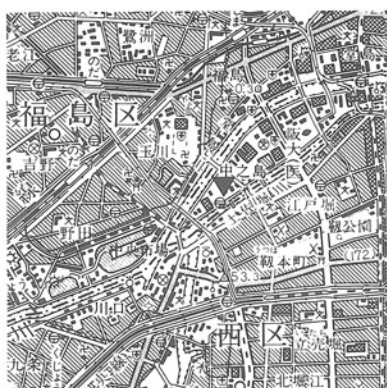
4 調査担当者 小倉徹也

5 遺跡の種類 蔵屋敷跡

6 遺跡の年代 江戸時代

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は新規に発見された遺跡で、堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島の西端付近に位置する。江戸時代には一帯に諸藩の大坂蔵屋敷が建ち並んでいたことが知られており、全国の経済や物流の中心となっていた。



(大阪西北部)

調査の結果、中央部で一七世紀後半から末にかけて機能した船入あるいは水路の石垣を検出した。木簡はこの石垣構築以前の一七世紀中頃から後半にかけての

停滞水域の海底堆積物（第10b ii層）中から出土した。木簡のほか、陶磁器と漆器、曲物などが出土している。なお、本調査地の蔵屋敷の藩名については明らかにすることができなかった。

8 木簡の釈文・内容

(1) 〔 〕

〔 〕

148×22×3 033

木簡の上端は一部破損しているが、左右に切り込みを入れ、下端はやや尖らせている。上端二カ所と上部付近に二カ所の小孔がある。荷札と考えられ、墨書があるのは確認できるが、残りが悪く判読できない。

9 関係文献

(財)大阪市文化財協会『大阪市埋蔵文化財発掘調査報告—二〇〇一・二〇〇二年度—』（二〇〇三年）



(小倉徹也・鳥居信子)